

# お散歩日和

一ノ割公園では4月の桜色から一転して新緑の季節を迎え、公園を取り囲む「花水木」や「つつじ」が見頃となり藤棚からは初夏の香りが立ち込めていました。陽射は徐々に強くなっていますが、ご入居者様は口々に「風が爽やかでとても気持ちがいいですね。」「森林浴が出来てリフレッシュしました。」と、心も笑顔も純んでいらつしやる様子でした。



藤家の道路沿いにある鏡彩園に見学に行きました。民家に伺い素敵な藤棚をみせて頂き、民家の方のお花の説明や特徴などを真剣な表情で聴きました。藤の香りに感動し、ご入居者様は目を瞑り、全身で感じていらつしやいました。



# デイサービス通信

謎解き冒険ツアー  
春日部の果てまで  
イッテ究!



今回は岩槻城址公園へ山設。「城跡に散る花びらの伴しさよ」で知られる人形の町にふさわしい「白鶴城」とも言われた城は、太田道灌が築城したとの説があります。戦国の時代を生きたため、のちに残された史跡。私達一行は広々とした緑の空間と古の人の豊かさや智慧の深さを感じながら季節のうつろいを感じながら全身で感じました。



さいたま市岩槻区太田三の四

## Q1.岩槻城跡は今どうなっているの？

A1.岩槻城跡は現在、一部が岩槻公園になっていますが、肝心の本丸はなんとショッピングセンターになってしまいました。公園の周囲に多数あるスポーツ施設や学校、住宅地などもみな岩槻城の一部です。もともとは元荒川周囲の湿地に浮かぶ城で、現在もわずかに沼地が残し、低湿地だったころの面影を残しています。また、新曲輪・鍛冶曲輪周囲の空堀は遊歩道として整備されています。



「美味しさと楽しさ」をご提供  
**ベネミール**  
トータルメニューサービスを提供する  
BenMeal  
食は生命のもと、生きる喜びをまきまきするもの。福祉施設の中でその感謝をしっかりと取り組んでいるのがベネミールです。



手際の良いさすがプロ。



本日のメニュー「ホイコーロー」、カボチャ煮、いんげんの胡麻和え、味噌汁、ごはん。色彩豊かな野菜中心で、栄養バランスの良い夕食。

ご利用者様の気持ちになつて、堅い物はやわらかく、具材の大きさにも心配りをしながら、家庭での食事のような味に近づけていくように、日頃考えながら提供させて頂いています。急な食事変更にも対応できるように、スタッフ同士、日々ミーティング、連絡ノート等でコミュニケーションをとっています。これからも、ご利用者様に食事の美味しさ、楽しさを感じて頂けるようなメニュー作りを心がけていきます。

ほかほか農園  
苗を植えてから早一ヶ月。お天気が不安定で、寒暖の差に見舞われながらも何とかすくすくと野菜たちも成長しています。ピーマン、しその葉、ししとうはすでに収穫が始まっています。各フロアーからも、ご入居者様に水やりや成長の様子を観察していただいています。植物の世話をしながらほころんで見えます。これからは皆様といっしょに毎日毎日の成長を楽しみたいと思います。



5/3に植えた苗が5/25には、葉の数がだいぶ増えました。

# でこぼこ一座 慰問



五月十日、デイサービスでは「でこぼこ一座」の公演が行われました。春日部市栄町を拠点に全国各地でボランティア活動を行っている団体です。懐メロの歌詞に合わせてのお芝居やコントはプロも顔負けのオチで観客席からはどっと笑いの渦が起きました。

この日の出し物は「東京だよおっ母さん」。歌詞の内容に合わせておっ母さんを東京見物に・二車橋で手を合わせます。観客席も静かになり昔を思い出していました。その後東京見物を続けるおっ母さん。勢い余ってこけ笑い、涙あり、笑いありの音楽劇でした。

その後「麦畑」など皆様と一緒に歌う場面もあり、終了後には「面白かった」「よく笑ったわ」「昔の素朴な時代を思い出して懐かしかった。」とお褒めいただいたばかりです。「でこぼこ一座」の皆様、楽しいひとときをありがとうございました。



美味しい食事を  
ありがとうございます。



「笑うと負けよ あっぶっぶ」フグ療法



「自分らしさを失わないこと。新しい自分らしさを見つけていくこと。」をモットーに、ぜひご家庭でも取り組んでみてください。

おそろくまったく音が出せなかったのでは無いでしょうか。口をしつかりと閉じてほっぺたをふくらませ、そして引く事ができるという事は、明瞭な発音が出来るといふ事につながります。飲み込みとの関係については、またの機会にお話しできればと思います。

ちなみに、子供が最初に発音できる言葉は、「パ行」「バ行」「マ行」といわれています。ですから、「パパ」「ママ」「ババ」という言葉は早い段階で子供の口から発せられます。残念ながら「ジジ」はともども子供には難しく、発音できるのはもっと後になってしまいますが、決してお祖父さんが嫌いなわけではありません。舌の動きが子供には難しいだけなのでご安心を。

# 家庭でできる「リハビリ」紹介

# 端午の節句



日本の端午(たんご)の節句は、奈良時代から続く古い行事です。端午というのは、もとは端(はじめ)の午(うま)の日という意味で、5月に限ったものではありません。しかし、毎月五日を指すようになり、やがて五月五日の事になったとも伝えられます。

五月五日の端午の節句に「鯉の吹き流し」を立て、「武者人形(五月人形)」を飾って男の子の前途を祝うようになったのは、徳川時代からです。五月五日の節句は、五と五を重ねる事から「重五」、菖蒲を用いることから、「菖蒲の節句」などと呼ばれています。「五」と「午」が相通することから、初節句を「端午」「端五」(端ははじめの意)と書きました。

# 端午の節句とちまきの関係

中国は戦国時代、紀元前278年のこと。楚(そ)の国の高名な詩人、屈原(くつげん)は国王の側近としてつかえ、人々からも慕われていました。しかし陰謀のため国を追われることになった屈原は、ついに汨羅(べきら)という川に身を投げてしまったのです。その日が五月五日。屈原の死を悲しんだ人々は、たくさんのちまきを川に投げいれて弔いました。この物語が、端午の節句にちまきを作って食べるという風習の起源だと言われています。こんなに昔の中国のお話が、今の日本にも息づいているなんて、なんだか不思議なことですね。

